

令和2年度事業経過報告

社会福祉法人 蘇南会
ケアハウス光露館

【令和2年度 目標】

福祉を取り巻く環境が目まぐるしく変化する中、少子高齢化の急速な進展や核家族化に伴う家庭・家族の介護力の低下、特に認知症高齢者や1人暮らし高齢者世帯が増加傾向にあり、社会的孤立や貧困を背景とする深刻な生活課題が顕在化している。

今春24年目を迎える光露館として、地域住民との交流を増やし情報収集に努め、ケアハウスの特徴を理解して頂き、「ケアハウスに求められるニーズ」「対応すべき課題」を明確にした上で、職員1人1人が力を合わせ問題解決へ向け取り組みことが重要と考える。

また、入居者の身体・認知機能レベル低下についても、“自立の部分”と“介護支援の部分”をうまく組み合わせながら「居心地の良い、その人らしい暮らし」を維持・継続できるように支援していく。

【目標に対しての実施経過報告】

(1)入居者の人権を尊重し、自由でプライバシーが確保される安心した生活を援助していく。

➡入居者1人1人の思いに耳を傾け、それぞれの生活スタイルを尊重し、安心した生活が送れるように援助する事ができた。

(2)管理栄養士による栄養管理を行い、委託業者(日清医療食品)により、入居者個々の健康状態に合わせた食事を提供する。また、嗜好調査・食事検討会等でニーズを把握し、季節感のあるバラエティーに富んだメニュー、適温での食事を提供する。食事の雰囲気等にも配慮し特に毎月『楽しいランチ・感謝の日』を行ない、食事の楽しさを味わってもらう。

➡入居者の体調に合わせて食事形態を変更し、いつでも食べやすい食事の提供を心がけた。又、食事検討会(3回/年)を行う事で、入居者の意見を直接、栄養士へ伝える事ができ、行事食を通して、“食に対する楽しさ”を実感して頂いた。

(3)年間を通してクラブ活動やレクリエーション、ニーズに即した行事を計画する。

福祉村各施設とのコミュニケーションを図り、入居者が生きがいを持てる生活が送れるよう支援していく。特にレクリエーションについては『体力増進』『介護予防』を重視して、個々の楽しみにつながる内容を計画的に推進する。また、必要に応じてニーズに合わせた外出行事を実施する。

➡今年度はコロナの影響で、施設外の方とのコミュニケーションが図れなかった為、施設内でのレクリエーションに力を入れ、入居者が退屈しない活動の企画と声かけを行い、多くの入居者に“楽しみながらの体力up”を目指した活動が実行できた。

(4)入居者の健康管理に配慮し、年一回の健康診断の実施や各医療機関受診等を援助する。また、介護予防に関する施策も取り入れていながら、入居者の健康増進を図り、その予防や維持に努める。認知症の予防にも努め、その早期発見、受診等を支援する。

➡年一回の健康診断結果に基づき、食事療法(糖尿食、減塩食、高脂血症食など)を行い、健康管理に配慮する事ができた。
又、ヘルパーやデイサービスの職員との連携を通じて、日常生活では気づくことのできないケガや体調の変化に対応する事ができた。

(5)介護保険対象の要支援・要介護の入居者に対しては、自立生活が維持できるように、介護保険制度を利用して、個々人にあった生活ができるよう支援する。

➡日々の様子観察やヘルパー、デイサービス職員からの情報を基に「今の生活を継続する為には」という視点から介護サービスを提案し、家族やケアマネージャーと相談しながら支援することができた。

(6)常に居室は、自主的に整理整頓をしてもらい、快適な生活を送ってもらえるよう援助する。

➡日常的な声かけや年二回の居室点検を通じて、居室の不具合を発見、修正することで快適な生活へ向けての支援ができた。

(7)入居者の人格・人権を尊重し、ありのままを受け入れるよう努力し、入居者の相談に適切に対応しながら、精神的ケアに努める。

➡入居者からの相談にしっかりと向き合い“施設内で解決できるか？”“ケアマネージャーへに相談すべきか？”などを判断し、問題解決に向け早急な対応を心がけた。

(8)入居者からの日々の意見の受付、また定期的な入居者懇談会の開催等から、日常生活上でのニーズを把握し対応していく。また、苦情がある場合は、迅速且つ適切に解決するようにする。

➡日常生活上での入居者からの意見に対しては、意見箱の設置を行っており、懇談会やお話会などの際に話を十分に伺う機会を設け対応した。
また、個別的な事案に対しては居室訪問等でお話を伺う等の対応を行い、迅速に対応する事ができた。

(9)施設便りを発行し、地域・行政・関係機関に情報を発信する。

➡地域や関係機関へ出向き、パンフレットを基に内容を説明し、必要時(独居生活にお困りの際)の対応が図れるようにした。

(10)職員は、毎月、職員会議や職員研修を行なうと共に各種研修会等に参加し、専門職としての自己研鑽に努める。入居者や家族に対しては、専門的な立場から自覚を持ち、思いやりを持って接する。

➡コロナの影響で各種研修会が中止になった為、各自専門誌等の熟読を行い専門職としての自己研鑽に努めた。
職員研修を通して、今必要な情報把握と入居者が抱える不安を解消できるように職員間で連携を図り対応を行った。

(11)常にリスクマネジメントに配慮し、早期の対応や予防的対応を重視する。また年二回以上防災避難訓練(夜間想定・昼間想定)を行う。

➡年二回の防火避難訓練については、話し合いの場(入居者お話し会)を設け、事前予習・本番(避難訓練)後の反省会を行い、避難訓練の大切さを理解していただいた。
又、職員研修を通じてリスクマネジメントの分析を行い、危険個所の把握や入居者への対応方法を統一することができた。

(12)職員は業務上知り得た入居者及び家族の個人情報に関する守秘義務を遵守する。

➡業務内の申し送り、介護サービス事業者など関係各所に対する必要な情報提供以外は守秘義務を遵守した。

(13)職員は、経費節減の観点から、省エネ・節水等に努める。

➡館内照明の節電に努め温室時計設置を行い、エアコンの使用も極力必要時のみとし経費節減に努めた。